

1 開会

2 学校長挨拶

先日学習発表会と創立130周年記念式典を無事に行うことができた。みなさんの御理解と御支援があったからだ、感謝申し上げる。130周年の事業を行うにあたり、改めて本校の歴史と伝統の重さを感じる。地域学校協働活動の取り組みであるボランティアバンクについて、現在70名を超える方に登録していただいている。この地域の「聾学校の力になりたい」という思いが形になっていることを校長として大変嬉しく思っている。

今後、創立130周年後の学校のあり方が大切になるので、今後も引き続き地域の方々、子どもたち、保護者、同窓生、及び後援会の方々と手を取り合って新たな価値を作り出していきたい。その意味では、学校運営協議会は貴重な機会なので、忌憚のない御意見、アイディアをいただきたい。

3 出席者確認及び新委員紹介

※自己紹介

4 日程説明

5 会長及び副会長の選任

会長：Mさん 副会長：Kさん

※第1回で承認される

6 協議・連絡報告

<協議>

(1) 創立130周年記念式典報告（教頭）

※教頭にて資料の説明 質問はなし

<意見・感想>

- ・式典のよろこびの言葉では、児童生徒がすごく堂々としていて感動した。そこに至る先生方の指導を想像するとなお感じるものが多かった。子どもたちにぜひ立派だったと伝えてほしい。
- ・盲学校の子どもの頑張っている様子を初めて見ることで良かった。
- ・盲学校を迎える立場になり、聾学校の生徒が気に掛けている様子を見ることができた。聾学校の子どもの成長を感じた。

(2) 食育について（教頭）

※教頭にて資料の説明

<意見・感想>

- ・バイキング給食をいただいて、栄養などの工夫をしているのがよく分かる。メニューも若者向けというより、昔ながらの栄養を考えて作っているのが分かる。物価が高い中でそのような工夫された食材を使っている御苦労に感服した。学校給食で食育をうたうのであれば物価高に対しても考えていかなければならないと感じた。
- ・SNS等では他地域の給食はとても残念な内容というのを見たことがある。それらと比べるととても充実したものと感じる。

※5時間目授業参観・施設見学

(3) 令和7年度北海道函館聾学校学校教育活動について（新出・大高）

※資料の説明

<意見・感想>

- ・教育相談の件数について、年度末の時点で約200件が想定されるということは、稼業日に1～2件の相談があるということ。どのようなところから相談が寄せられているのか。

→多いのは乳幼児相談。定期的に来校してグループ指導を通して、聞こえや親子のかかわり方、ことばの発達などについての活動を行っている。他にも、小中高生の保護者から年度途中に連絡を受け、教育相談につながることもある。

- ・年間200件と聞くと、ボランティアの件数同様すごく多いと感じる。

(4) 令和7年度学校いじめ基本方針について（教頭）

<質疑>

- ・実際にいじめはあるのか？

→今年度のアンケートでは、いじめがあるという報告までではないが、重複学級で他害のある実態の子どもにかかわることがアンケートで出てきている。それ以降は複数の指導者で対応するなどの指導体制や危険な物から遠ざけるような物理的な指導環境を整えている。当事者の保護者とも共有をしている。

- ・授業参観の際に宿泊研修の「いってらっしゃい」「おかえり」の模造紙を見て、友達を思いやる取組として見てとれた。このような友達を思う気持ちを育てる取組がいじめ防止にもつながっているのではないかと。

→幅広い発達段階の子どもが在籍している学校なので、発達段階が上になればなるほど下の子の面倒を見なければいけないという気持ちが育っていく。泊行事のときや、卒業生の櫻庭さんへの応援メッセージなど、相手を思う気持ちを育てる取組がいじめの防止につながっているかもしれない。

(5) 函館聾学校ボランティアバンクについて（教頭）

<意見・感想>

- ・一般的なボランティアでは、なかなか上手く活動できない例が多い。ボランティアの募集をかける側とボランティアのをしたい人とのニーズが合わずに自然消滅的に無くなるケースが多いようだ。具体的な「こういうことをしてほしい」という発信があることで、つながりがひろがっていくのではないかと。

(6) 学校評価について（教頭）

(7) 今年度の協議会の予定について（教頭）

7 その他 ～感想～

- M 様：毎回授業参観等を楽しみにしている。今日のように一緒に食事をできて一層親近感がわいた。たまたまラジオでデフリンピックの特集を聞いた。テニスについての話題で、聴覚障がい者でも、目が見えているからプレーに影響がないと思われがちだが、(距離感など)音から得ている情報が大きいということを改めて知ることができた。何年も聾学校とかかわってきているが、それでも耳が不自由な方がどのような世界で生きているのかは分かりづらい。聾学校とかかわりが少ない人ならなおさらだと思うので、聾学校が聴覚障がいについての情報発信の拠点になってくれたらもっと理解が広まっていくのではないかな。
- K 様：学校の空気が明るいと感じる。先生方一人一人が想いをもって働いていることが分かる。これは先生方の働きやすさとも関連するのではないかな。先生方が働きやすい空気感を維持してほしい。
- N 様：先ほど補聴器の電池チェッカーを見た際に、最近は電池式のものが一般的になっていることに気づいた。以前は大きくて扱いにくい補聴器しかなかった。当時は補助金制度があったものの、高くてなかなか買えなかった。自分の場合は、身体障がい者の補助を受けることができたため、両親が一生懸命お金を貯めて、小学校1年生の頃に大きな補聴器を購入してくれた。当時は色も選べず、不便なことが多かった。また、当時は口話の指導が非常に厳しく、今のように手話を使って学ぶ環境ではなかった。現在の子どもたちは、さらにパソコンや英語の学習にも積極的に取り組んでおり、その成長ぶりに感心している。時代の変化とともに、学びの環境が大きく進歩していることを実感し、懐かしさとともに感慨深い気持ちになった。
- T 様：子どもたちが成長したいと思っていると感じる。授業参観では、私たちが教室に入る前は一生懸命勉強している様子が見えたが、教室に入ると恥ずかしさやいつもと違うと感じている様子が見えた。自分の気持ちを表現できるのも成長の一つではないかな。英語や社会の勉強の様子を見て、懐かしく感じた。また改めて自分も一緒に勉強したいと感じた。
- TANI 様：バイキング給食楽しかった。一緒に席になった子どもに何が得意かを聞いたところ「英語」と答えた。授業参観ではその生徒の英語の授業を観ることができた。とても楽しそうに授業をしていた。得意なことに笑顔で取り組める学校なら、来たいと思えるはず。今回のように定期的に授業を見る機会があると、子どもの成長を感じることができる。
- ISHI 様：子どもをこの学校に通わせて良かったと感じている。
- A 様：バイキング給食から参加させてもらった。授業で頑張っている先生方の他、栄養教諭と、調理師さんの連携や頑張りを感じられた。栄養教諭がいくら良いメニューを考えても、調理師さんがそれを作れなければ、子どもたちに良いものを届けられない。この学校ではしっかりと連携が取れていて、美味しいものが提供されているので素晴らしいと感じた。
- IGA 様：自分が高校生のときに聾学校の隣にある学校に通っていたが何もかわりがなかった。やっと聾学校の授業を観ることができた。
- Mat 様：いろいろな学校のCSを見させていただいた中で、自校の子どもたちの障がいについてや、特別支援学校で支援する側や保護者の思いなどを、地域へ周知することが課題となっている学校が多い。去年から聾学校のCSに参加させていただいた中で、授業を観て子どもたちの日常や先生方の支援の仕方が分かる良い機会となっていると感じる。だからこそ、地域に対してどんな周知の方法があるのか、具体的に見えるような運営協議会にできれば、大きなボランティアバンクもあるので、どんどん面白くなっていくのではないかな。

8 閉会

